

# 労使関係の正常化をめざして

19

2026/5/6

編集・発行：回転寿司ユニオン

## はま寿司の企業内組合・池田徹委員長ほか1名、光の速さで逃走 「臨店」先で回転寿司ユニオン役員に見つかり大慌て

前号で、はま寿司の企業内組合が、回転寿司ユニオンへの移籍者が発生した職場に出没し、移籍者への接触を図っている事実を明らかにした。

きょう、再び移籍者の在籍する近畿地方の店舗に彼らの「臨店」が来るとの情報を受け、GWのUターンラッシュで飛行機・新幹線ともほぼ満席の中、回転寿司ユニオンの役員がなんとか急行。すると、駐車場に停車する「わ」ナンバーの白色レンタカーを発見し、車内を確認したところ、助手席に座る池田徹中央執行委員長を現認。池田氏は、こちらを確認するや否や、携帯電話でどこかに架電。まもなく店舗から大慌てで制服姿のままの男性1名（山崎健太郎中央執行副委員長か石田康夫書記長と思われる。）が同車に飛び乗り、そのまま公道を南方面へと逃走していった。

自分たちの行動が正当な組合活動だというなら堂々としておけばよいものを、光の速さで逃走を図るとは、よほど自分たちのやっていることがやましいのだろう。同じく前号で指摘した、石田書記長の「会社を通してください」発言とあわせても、一連の行為が会社の指示のもとで行なわれていることは明白だ。

本件も含め、都労委の場ではま寿司会社の責任を徹底的に問うていく。

### 現場は総スカンの「臨店」に【クルー1,500人分/月】もの財政を使う背信ぶり

「めざして」15号では、企業内組合がクルーで1.5倍、正社員では2倍もの組合費引上げを行なったことに触れ、その引上げ理由が①災害時の見舞金対応のための貯蓄、②福利厚生の実施（東京ディズニーランド、ユニバーサルスタジオジャパンの2000円割引補助の導入など）、③物価高騰による費用増のため（ユニオンカレンダー作成など）の3点と交渉・闘争費用の観点があるでないことを批判した。

しかし、このような「臨店」にいくらの費用をかけているのだろうか。たとえば先月は、3名のクルーのなかまが企業内組合と決別し、回転寿司ユニオンに結集した。地方は、北海道1名、近畿南部が2名である。企業内組合の本部がある東京から新千歳や関空への航空運賃は、1人あたり往復4～5万円（申入れ直後に「臨店」することが多いので早割運賃はほぼ使えない）ほどで、2人で10万円ほど。レンタカー代やガソリン代が1泊2日で2万円ほど、宿泊費が1泊2日、2人で2万円ほどとすると、1回の「臨店」で15万円ほど要する概算だ。これが月に3回だと45万円にもなる。これは、クルー1,500人分の月額組合費に匹敵し、バカにならない金額だ。

だが、このような「臨店」をどう受け止めているか、実際に「臨店」に遭遇した従業員に聞いてみても、「なぜ急に？」「これまで1回も来たことはなかったのに」とまるで総スキャンなのである。

これほど現場組合員のためにならない、会社のためにしかならない行動に財政を垂れ流す企業内組合役員の仕事は、まさに背信行為というほかない。